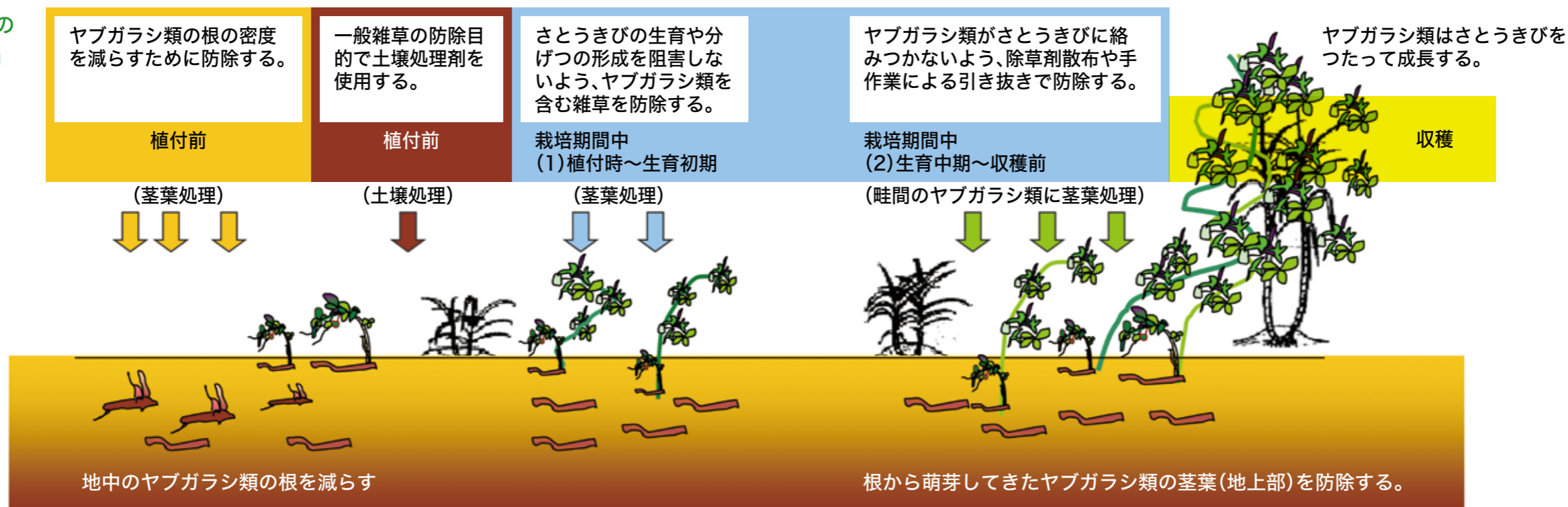


ヤブガラシ類の防除の考え方

(2) 防除のポイント

「ほ場内での防除方法」



1) ほ場外

ほ場外に生息するヤブガラシ類は、土の移動や植木の移植に伴う茎葉や根による侵入、種子等により広がる。そこで、ヤブガラシ類の発生している場所から土の移動や植木の移植は絶対に行わない。

熟果実（種子を形成している）は、夏～秋に多く発生するので、熟果実ができる前に除草剤で防除する。

! ヤブガラシ類を外から入れない!



ほ場の近くに発生したヒイラギヤブガラシ

2) ほ場内

つる性のヤブガラシ類は、さとうきびの茎や葉に絡みながら生長し続け、ほ場を覆うまでに生長する。そこで、ヤブガラシ類の防除は、以下の点に重点を置く。

① 植付前の根の防除

ヤブガラシ類の根は土壌の深さ1m以上にも分布するが、グリホサートカリウム塩液剤を複数回茎葉散布することで、茎葉から吸収され、有効成分が根まで浸透移行させて枯死させる。

② 栽培期間中の茎葉防除

ヤブガラシ類がさとうきびに絡みついて生育を阻害する前に防除する。新植や株出栽培の生育初期におけるヤブガラシ類の防除は、2,4-PA液剤を散布する。ただし、他の雑草も合わせた防除の必要がある場合は、他の選択性除草剤も併用して防除する。

! ヤブガラシ類をほ場内でまん延させない!